

激流

その先

口蹄疫から10年

■ 5 ■

愛知県豊田市の養豚

殺処分や埋却などの

場トヨタファーム。昨年初動防疫は時間がかか
なる豚コレラ（CSF）が発生し、約7千頭を殺処分するため家
畜保健衛生所や自治体職員、数百人の自衛隊員らが集まった。作業は24時間態勢で、完了は6日後。「発生から24時間以内の殺処分、72時間以内の埋却」という国の目安を大幅に超えた。

殺処分

効果的な訓練継続を



愛知県豊田市の養豚場トヨタファームで初動防疫に当たる作業員ら＝2019年2月（鋤柄雄一さん提供）

し、長さ20メートルほどの注射針で薬殺。自衛隊員は5人一組で死んだ豚を手作業で1頭ずつ豚舎の外へ運び出し、土木・建設業の作業員がシヨベルカーで隣接地に穴を掘り次々と埋却していく。

現場では資材が足りなかつたり、重機の操縦者がいなくなつたりと、経験不足が露呈した。災害派遣要請を受けた自衛隊は、指しもたないまま4時間近い待機を余儀なくされ、何もせず撤収する一幕もあつた。

2010年の口蹄疫で、愛知県を含む全国の家畜保健衛生所の獣医師が本県に派遣され、殺処分に携わつた。獣医師で愛知県農政課の加古奈緒美課長補佐も現場を知る1人だが、「経験は生かせなかつた」。

その結果、1例目以降の初動防疫も効率はずらず、12日間を要したこともあつた。夏場は熱中症予防のため日中に作業できないなど、現場で多くの課題に直面することとなつた。

本県では口蹄疫後、県や発生自治体が机上・実動演習を繰り返す。昨年10月には都農、川南、高鍋町が合同研修会を実施。口蹄疫発生後に入庁した若手職員は、防護服を着用して消毒訓練を経験した。

同県では09年、鳥インフルエンザが発生。以降、県や建設業の関係者らで年1回、初動防疫の作業手順などを確認する。豚の飼育数は約35万頭（昨年2月現在）で全国9位と有数の産地だが、豚や牛の家畜伝染病を想定した訓練はなく、口蹄疫の経験は十分には共有されなかつた。

川南町産業推進課畜産係の長友竜二係長は「実効性のある訓練を続けていかなければならない」と教訓を受け、継ぐ重要性を語る。